Ⅳ．ダンスの「知識」と「技能」を関連付けるための教材開発と活用実践事例について

1. ダンスの「知識」と「技能」を関連付けるための教材開発について
2. ダンスの「知識」と「技能」を関連付けるための教材の活用実践事例について
   2-1．K 県 M 市立 A 中学校　　2 -2．N 県 N 市立 B 中学校
3. まとめ

１．ダンスの「知識」と「技能」を関連付けるための教材開発について

1-1.　「技能評価観点構造図」について

教師側のダンス経験や指導経験，知識の不足（中村，2009；松本・寺田，2013）や，学習指導要領で示された趣旨とは異なる授業の実施（中村，2009；熊谷・中川，2014）が指摘される中，現職の教員が非定形の表現･創作ダンスやリズムダンス･現代的なリズムのダンスの技能評価構造を理解し，授業に生かすことは非常に重要であると考える．

筆者らは，これまで，学校体育現場における教員が理解しやすい表現・創作ダンスやリズムダンス・現代的なリズムのダンスで求められる技能評価観点を構造化した図（以下，「技能評価観点構造図」，図 98・99）を作成した（栫ほか，2020）．教員対象のダンス研修会に参加した 71 名の現職の体育教員に「技能評価観点構造図」を提示し，技能評価観点の構造について説明を行った結果，全員が「技能評価やダンス指導においてアドバイスする上で役立ちそう」と答えたことからも，学校体育の体育授業での活用が期待されている（栫ほか，2020）．

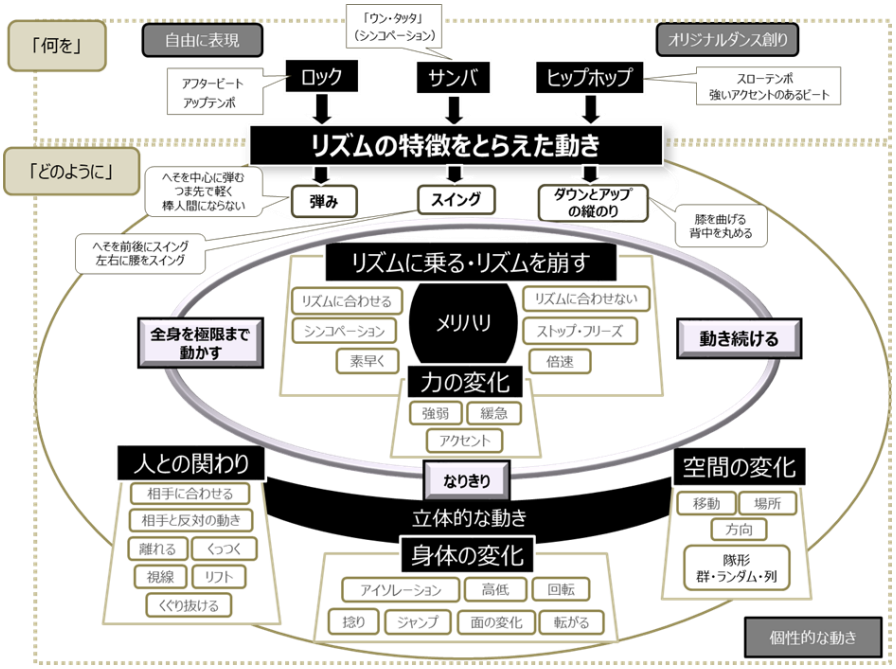


図 98　リズムダンス・現代的なリズムのダンスの技能評価観点構造図

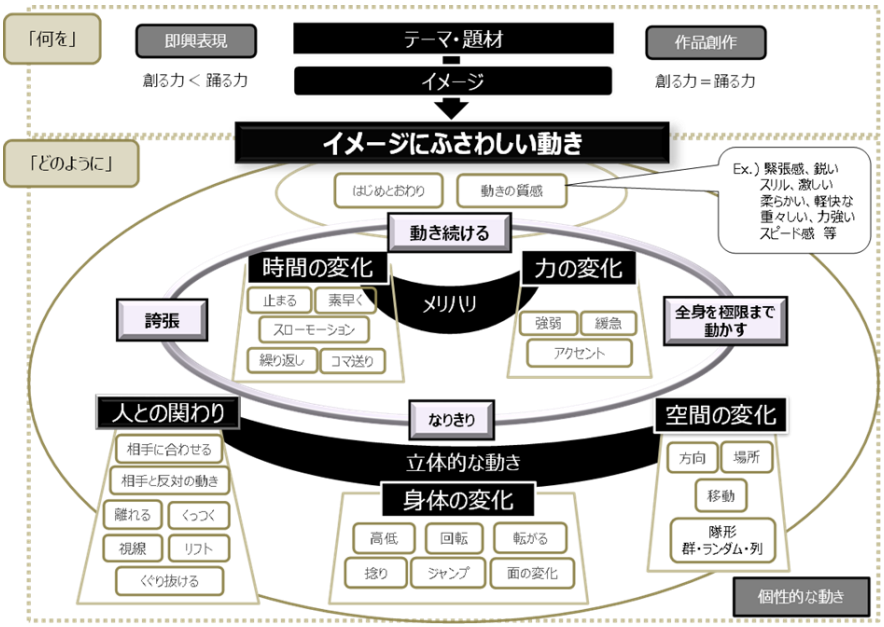


図 99　表現・創作ダンスの技能評価観点構造図

1-2. 中学校でのダンス授業における活用について

新学習指導要領では，全ての教科等の目標及び内容を「知識及び技能」「思考力，判断力，表現力等」「学びに向かう力，人間性等」となり，ダンスにおいても「知識」と「技能」を関連付けて学習させることが重要視される．今後は，これまで教員自身が持ち合わせていた技能評価観点に関する「知識」を，指導内容に応じて，生徒に示さなくてはならない機会が増えることが予想される．

そこで，「技能評価観点構造図」について，九州圏内の 2 校の中学校のダンス授業で活用し，その成果と課題について検討した．

2. ダンスの「知識」と「技能」を関連付けるための教材の活用実践事例について

2-1. K 県 M 立 A 中学校における実践

（1）授業対象

A 中学校は，平成 22 年 4 月，4 小学校と 2 中学校が再編し，平成 25 年 4 月には，施設一体型小中一貫校としてスタートし，K 県内初となるコミュニティ・スクールに指定された．そして，平成 31 年 4 月，K 県内初となる義務教育学校となった．各学年 1 クラス編成で，前期課程（小学校）83 名，後期課程（中学校）46 名の計 129 名の児童・生徒数の学校である．

本実践の授業対象は，中学校第 3 学年の 1 クラス（男子 7 名，女子 10 名）の「ダンス領域」の授業とした．担当は，50 代の保健体育科教員（男性）1 名と，地域指導者 1 名（30 代，女性）[4]であった．中学校第 3 学年の「ダンス領域」は選択領域であるが，第 3 学年の生徒全員で男女共習形態にて実施されていた．

全 9 時間を配当し，種目は「現代的なリズムのダンス」であった．このクラスは，第 1 学年・第 2 学年時には，「フォークダンス」に取り組んでおり，「現代的なリズムのダンス」については，今回が初の挑戦であった．

（2）教材の活用について

リズムダンス・現代的なリズムのダンス用の「技能評価観点構造図」（図 1 ）と解説付きの「技能評価観点構造図」（図 100）を，地域指導者を通して，保健体育科教員と共有した．

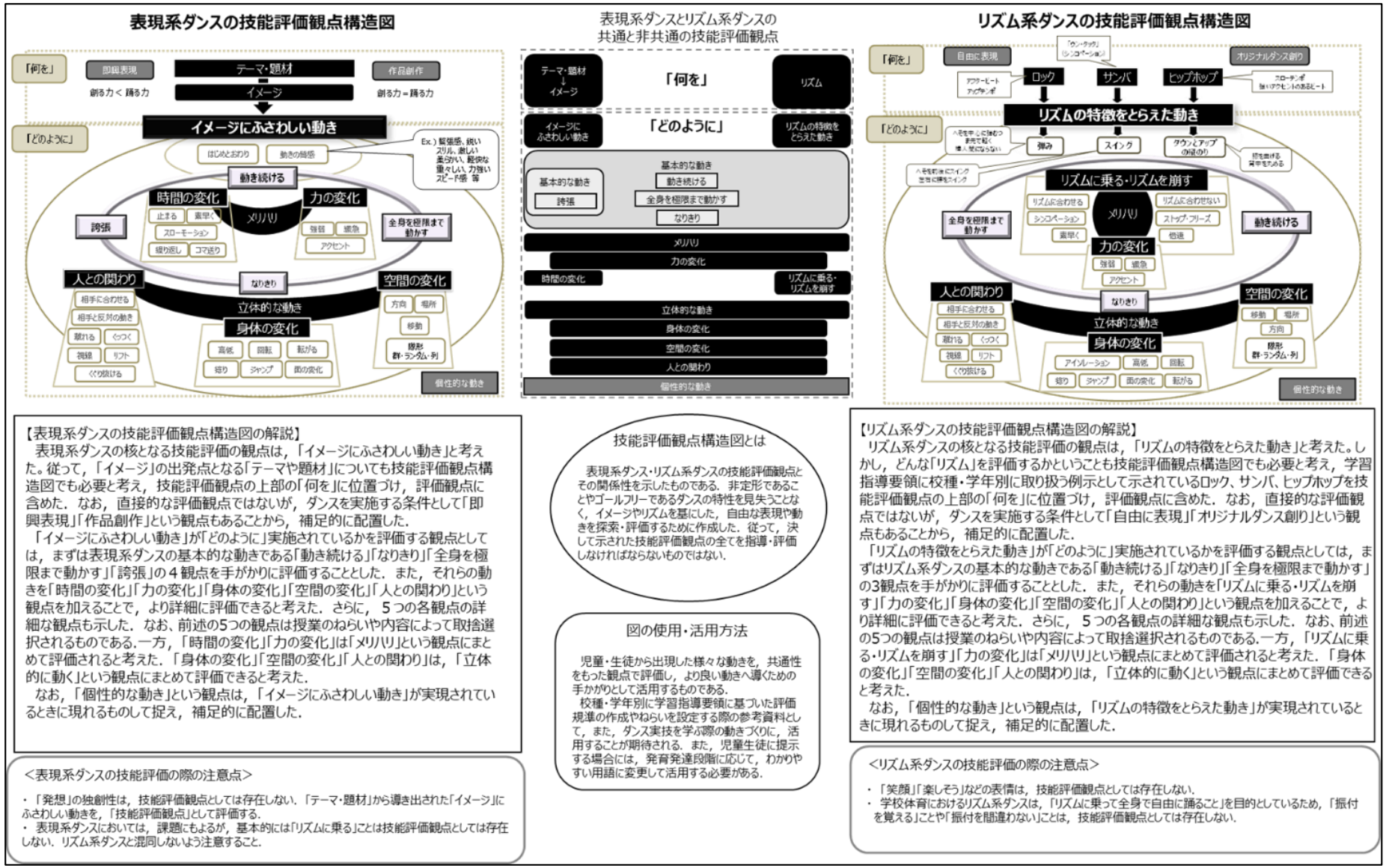
図の活用方法については，こちら側からは指定はせず，保健体育科教員と地域指導者に一任した．その結果，単元後半の「動きを工夫する」場面で活用することとなった．

（3）実践事例の調査について

全 9 時間の授業が終了後，授業に携わった地域指導者 1 名にインタビュー調査を行った．研究目的を伝え，インタビュー内容を IC レコーダー（OLYMPUS 製 Voice-Trek V-863）に録音することを説明し，同意を得た．また，得られた結果は本研究の目的のみに使用し，個人情報として外部に漏れることがないよう配慮すること，インタビューは拒否する権利を保持し，拒否によって何らかの不利益を被ることがないこと，およびインタビューの途中でも中止できることを文書及び口頭で伝えた上で実施した．調査日は，2019 年 11 月 25 日であった．

---

[4] 地域指導者は，令和元年度中学校武道等地域連携推進事業（事業主体：K 県教育委員会）を活用して，派遣されていた．今回対象とした授業に携わった地域指導者は，この事業の地域指導者として 4 年目であり，教員養成を担う大学にて「ダンス」実技授業の非常勤講師としての勤務経験がある．K 県教育委員会が主催する「ダンス指導者研修会」の参加経験もあり，日本女子体育連盟の公認資格 JAPEW-DMIL 指導員 B 級を取得する等，学校体育のダンス授業について精通している．



【表現系ダンスの技能評価観点構造図の解説】
表現系ダンスの核となる技能評価の観点は，「イメージにふさわしい動き」と考えた。従って，「イメージ」の出発点となる「テーマや題材」についても技能評価観点構造図でも必要と考え，技能評価観点の上部の「何を」に位置づけ，評価観点に含めた．なお，直接的な評価観点ではないが，ダンスを実施する条件として「即興表現」「作品創作」という観点もあることから，補足的に配置した．
「イメージにふさわしい動き」が「どのように」実施されているかを評価する観点としては，まずは表現系ダンスの基本的な動きである「動き続ける」「なりきり」「全身を極限まで動かす」「誇張」の４観点を手がかりに評価することとした．また，それらの動きを「時間の変化」「力の変化」「身体の変化」「空間の変化」「人との関わり」という観点を加えることで，より詳細に評価できると考えた．さらに，５つの各観点の詳細な観点も示した．なお、前述の5つの観点は授業のねらいや内容によって取捨選択されるものである.一方，「時間の変化」「力の変化」は「メリハリ」という観点にまとめて評価されると考えた．「身体の変化」「空間の変化」「人との関わり」は，「立体的に動く」という観点にまとめて評価できると考えた．
なお，「個性的な動き」という観点は，「イメージにふさわしい動き」が実現されているときに現れるものして捉え，補足的に配置した．

＜表現系ダンスの技能評価の際の注意点＞
・「発想」の独創性は，技能評価観点としては存在しない．「テーマ・題材」から導き出された「イメージ」にふさわしい動きを，「技能評価観点」として評価する．
・表現系ダンスにおいては，課題にもよるが，基本的には「リズムに乗る」ことは技能評価観点としては存在しない．リズム系ダンスと混同しないよう注意すること．

技能評価観点構造図とは
表現系ダンス・リズム系ダンスの技能評価観点とその関係性を示したものである．非定形であることやゴールフリーであるダンスの特性を見失うことなく，イメージやリズムを基にした，自由な表現や動きを探索・評価するために作成した．従って，決して示された技能評価観点の全てを指導・評価しなければならないものではない．

図の使用・活用方法
児童・生徒から出現した様々な動きを，共通性をもった観点で評価し，より良い動きへ導くための手かがりとして活用するものである．
校種・学年別に学習指導要領に基づいた評価規準の作成やねらいを設定する際の参考資料として，また，ダンス実技を学ぶ際の動きづくりに，活用することが期待される．また，児童生徒に提示する場合には，発育発達段階に応じて，わかりやすい用語に変更して活用する必要がある．

【リズム系ダンスの技能評価観点構造図の解説】
リズム系ダンスの核となる技能評価の観点は，「リズムの特徴をとらえた動き」と考えた。しかし，どんな「リズム」を評価するかということも技能評価観点構造図でも必要と考え，学習指導要領に校種・学年別に取り扱う例示として示されているロック、サンバ、ヒップホップを技能評価観点の上部の「何を」に位置づけ，評価観点に含めた．なお，直接的な評価観点ではないが，ダンスを実施する条件として「自由に表現」「オリジナルダンス創り」という観点もあることから，補足的に配置した．
「リズムの特徴をとらえた動き」が「どのように」実施されているかを評価する観点としては，まずはリズム系ダンスの基本的な動きである「動き続ける」「なりきり」「全身を極限まで動かす」の3観点を手がかりに評価することとした．また，それらの動きを「リズムに乗る・リズムを崩す」「力の変化」「身体の変化」「空間の変化」「人との関わり」という観点を加えることで，より詳細に評価できると考えた．さらに，５つの各観点の詳細な観点も示した．なお、前述の5つの観点は授業のねらいや内容によって取捨選択されるものである.一方，「リズムに乗る・リズムを崩す」「力の変化」は「メリハリ」という観点にまとめて評価されると考えた．「身体の変化」「空間の変化」「人との関わり」は，「立体的に動く」という観点にまとめて評価できると考えた．
なお，「個性的な動き」という観点は，「リズムの特徴をとらえた動き」が実現されているときに現れるものして捉え，補足的に配置した．

＜リズム系ダンスの技能評価の際の注意点＞
・「笑顔」「楽しそう」などの表情は，技能評価観点としては存在しない．
・学校体育におけるリズム系ダンスは，「リズムに乗って全身で自由に踊ること」を目的としているため，「振付を覚える」ことや「振付を間違わない」ことは，技能評価観点としては存在しない．

図 100　解説付き「技能評価観点構造図」

（4）分析方法

インタビューにおける全ての会話内容を書き起こし，逐語録を作成した．逐語録を意味のある1つの文章または単語に区切り，テクスト化した．

（5）授業計画

授業の成果として，仕上げた作品を文化祭の舞台発表で踊ることを目標に授業が計画された（表24）．

まず1時間目には，「現代的なリズムのダンス」の中で今回主として取り扱う「ヒップホップのリズムのダンス」について，文化や歴史といった「知識：ダンスの名称や用語，踊りの特徴と表現の仕方」について指導されていた．

2時間目には，生徒が使用している実技副読本（大修館書店）に記載のあるステップを参考に，「ボックスステップ」「ランニングマン」「ニュージャックスイング」を地域指導者が中心に指導し，それぞれのステップをダウンやアップでリズムの取り方を変化させて行うなど，基礎的なステップ習得が行われた．

3時間目は，ウォーミングアップに「創作ダンス」の要素を取り入れ，「リーダーに続け」が実施された．しかし，自由な動きを即興的に創り動くことに生徒たちが慣れておらず，戸惑いが見られた．そこで，急遽，動きを「走る―跳ぶ―回る―転がる」とし，定形で指定した動き以外の「自由」な動きを少しずつ体験させた．その後，2時間目に指導したステップを繋げて踊ることをねらいとして指導が行われた．その際，ステップの順は自由で，リズムのアレンジも各自で行うよう指示された．

4時間目のウォーミングアップは，3時間目のウォーミングアップの「走る―跳ぶ―回る―転がる」に「何が」+「走る―跳ぶ―回る―転がる」,「誰が」+「走る―跳ぶ―回る―転がる」等，動きに自由にテーマを付けて動くよう指示された．その後，2×8程度の長さについて，2時間目で習得したステップをもとに，動きを考えさせた．3時間目では，1人で行っていたものを2人組で行うことにより，2人でしかできない動き（向きを反対にしたり，揃えたりなど）を生み出すよう指導された．

5時間目は，4時間目の内容についてペアを変えて実施された．徐々に規定のステップに限らず，動きに自由度を高めていった．

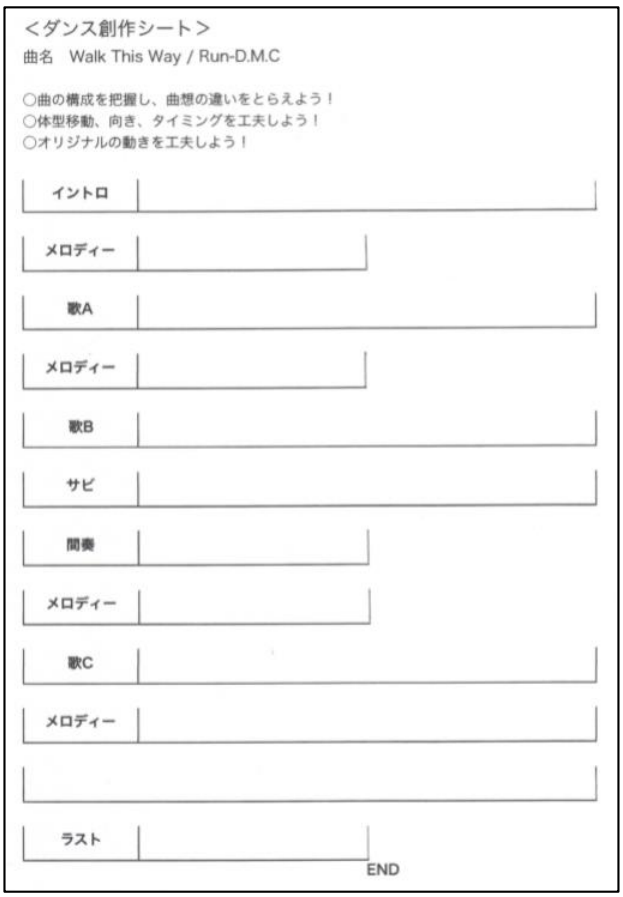
6時間目からは，文化祭での発表に向けて，クラス全員での作品づくりに取り組んだ．まず，Run-D.M.C の Walk This Way の曲について地域指導者が作成した「ダンス創作シート」（図4）に基づき，曲の構成を理解させた．その上で，これまで3時間目から5時間目で創り出された動きをもとに，クラス全員で，どのタイミングで何の動きをするかを考えながら，作品を創り上げていった．7時間目には，隊形移動も含め，1曲完成することができた．

8時間目には，7時間目で完成させた作品をさらに発展させるため，「技能評価観点構造図」を用いて，動きを工夫する活動が行われた（詳細は後述する）．

9時間目は，文化祭での舞台発表に向け，踊り込み，仕上げの段階となった．

表 24　授業計画

時間数	ねらい	主な指導内容
1 時間目	ダンスについて知ろう	あいさつ，ウォーミングアップ（円形コミュニケーション，2 人組あんたがたどこさ），リズム遊び ヒップホップの文化・歴史
2 時間目	ステップに挑戦しよう	ボックスステップ・ランニングマン・ニュージャックスイングをダウンとアップで
3 時間目	動きをつなげてみよう	ウォーミングアップ：走る－跳ぶ－回る－転がる 2 時間目のステップを順番・リズムは自由に繋げる
4 時間目	2 人組の動きを考えよう①	ウォーミングアップ：走る－跳ぶ－回る－転がる に「何が」「誰が」等を付けて応用の動き 2× 8 ずつ 2 人組で
5 時間目	2 人組の動きを考えよう②	4 時間目とは異なる 2 人組で
6 時間目	曲の構成を理解しよう	♪Walk This Way の構成表（図 101）を見て，動きを考える
7 時間目	1 曲踊ってみよう	動きと構成を考えながら，1 曲完成させていく
☆8 時間目	図を使って動きを工夫しよう	「技能評価観点構造図」を用いて動きを工夫する
9 時間目	発表会準備	踊り込み



＜ダンス創作シート＞

曲名　Walk This Way / Run-D.M.C

○曲の構成を把握し、曲想の違いをとらえよう！
○体型移動、向き、タイミングを工夫しよう！
○オリジナルの動きを工夫しよう！

イントロ	
メロディー	
歌A	
メロディー	
歌B	
サビ	
間奏	
メロディー	
歌C	
メロディー	
ラスト	

END

図 101　曲構成表「ダンス創作シート」

（5）8 時間目の授業展開について

7 時間目でひとまず完成させた動きについて，さらに発展させるため，まず，地域指導者が「技能評価観点構造図」を掲示して，それぞれの図の動きの要素について説明を行った（写真 3）．これまで授業で習得した動きがどのような動きの要素から成り立っていたのかを理解することができるよう説明がなされた．

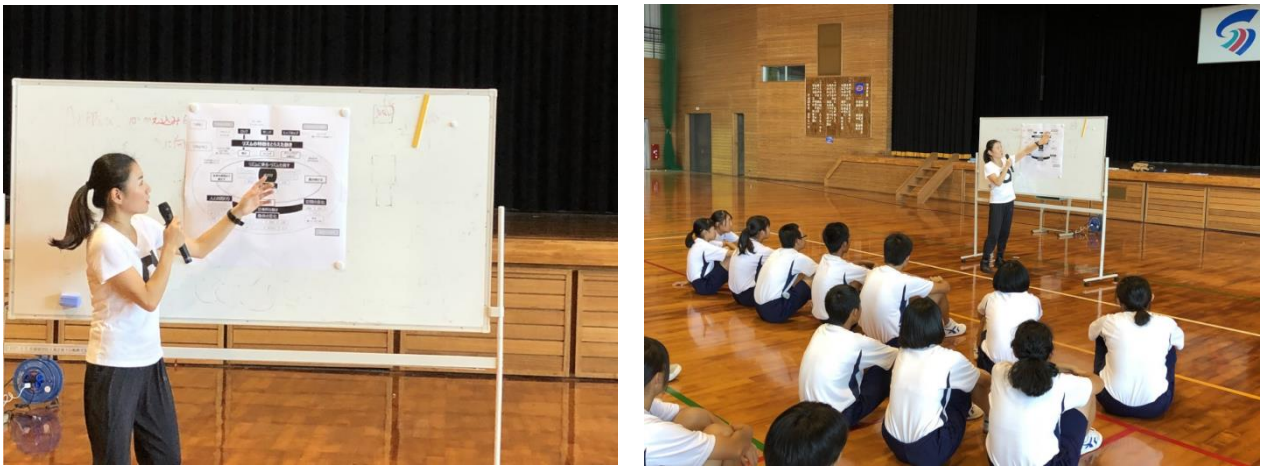


写真 3　「技能評価観点構造図」説明風景

教員が説明した後，生徒たちにも「技能評価観点構造図」を配布し，それぞれのグループやペアごとに動きについて，どのように工夫できるかを，図に書き込ませながら考えさせた（写真 4，図 102）．

その後，考えた動きの工夫を実際に実践してみて，動きを発展させ，作品の質を高めていった．

写真 4　「技能評価観点構造図」を用いた話し合いの様子

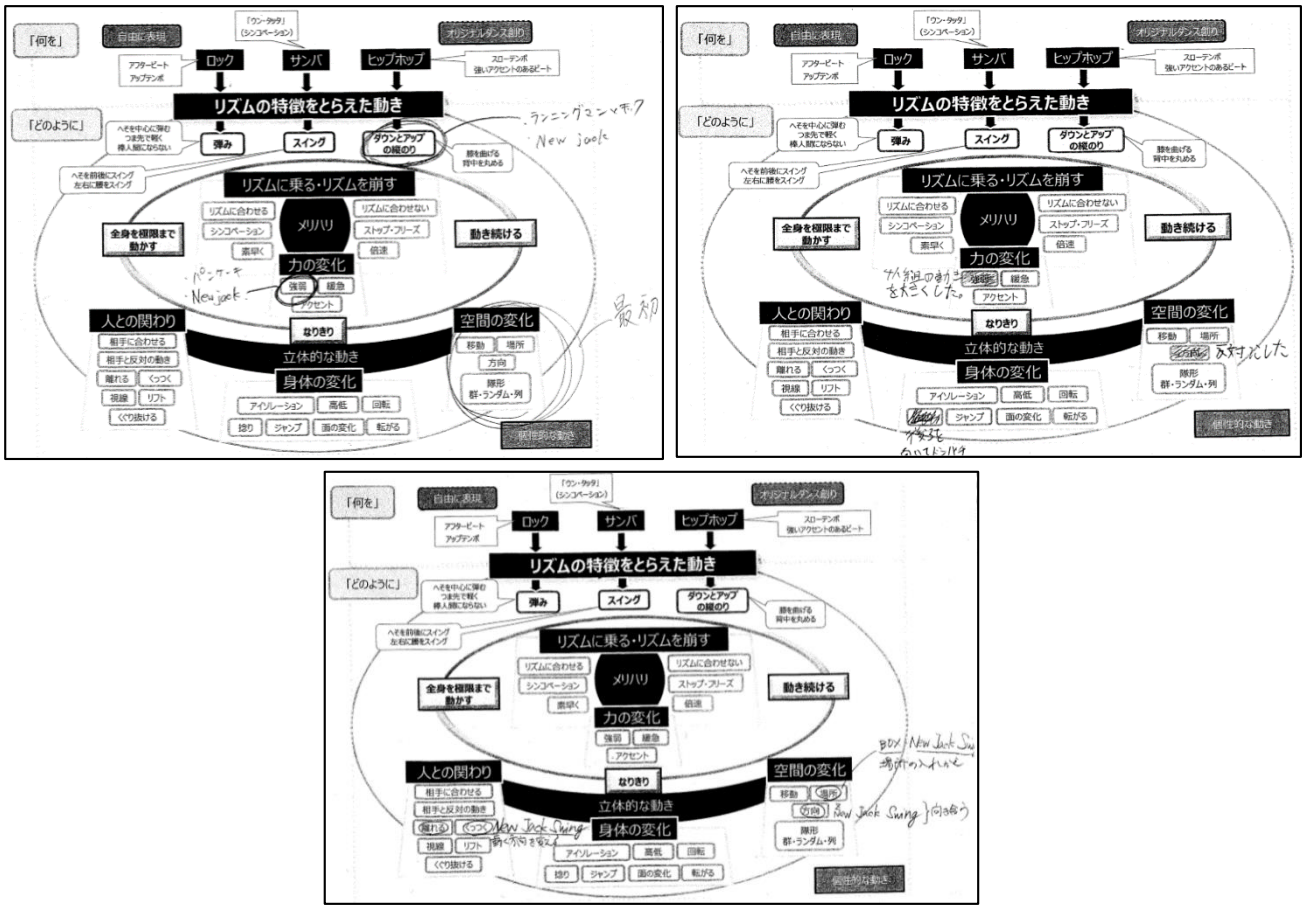


図 102　生徒たちが動きの工夫を思考する際に記入した「技能評価観点構造図」の一例

（6）「技能評価観点構造図」の活用の仕方について

A 中学校の現代的なリズムのダンスの授業においては，「技能評価観点構造図」を授業の後半に活用していた．これは，授業を担当した教員及び地域指導者が，頭で動きを「理解」してから，実践する（踊る）のではなく，まずは，生徒たちが，ダンスをある程度「踊れる」＝「できる」ようになってから，さらに動きを高めたいというタイミングで動きの要素を提示した方が，より理解が深まるのではないかと判断したからであった．

地域指導者からは，ただ動きを工夫しようといっても，生徒たちはどの動きをどうしたら良いかわからないが，この図があったおかげで，どこをどう工夫すれば良いかのヒントがあり，効率よく動きを高めることができていたと述べられていた．また，生徒たちが今まで実践した動きについても，その動きがどのような要素から成り立っていたのかを，あらためて頭で理解することができていたと感じていた．

（7）生徒の授業後アンケート

①実施方法

9 時間目の授業の最後に，生徒にアンケートを実施した．項目は，以下の通りであった（巻末資料 2）

・「ダンス」の授業は楽しかったですか？
・「ダンス」の授業を通して，授業を受ける前よりも踊れるようになりましたか？
・「ダンス」の動きの要素を示した図は，ダンスの動きを高める上で役立ちましたか？
・「ダンス」の授業を通してどのような力が身に付きましたか？全てに〇をしてください．
・「ダンス」の授業を経験して，「ダンス」への興味・関心が高まりましたか？

②アンケート結果

有効回答数は，16 名（男子 7 名，女子 9 名）であった．

「『ダンス』授業は楽しかったですか？」の問いに対しては，9 割以上の生徒が「そう思う」「ややそう思う」と答えていた．1 名のダンスのみが，「あまりそう思わない」と答えていた．

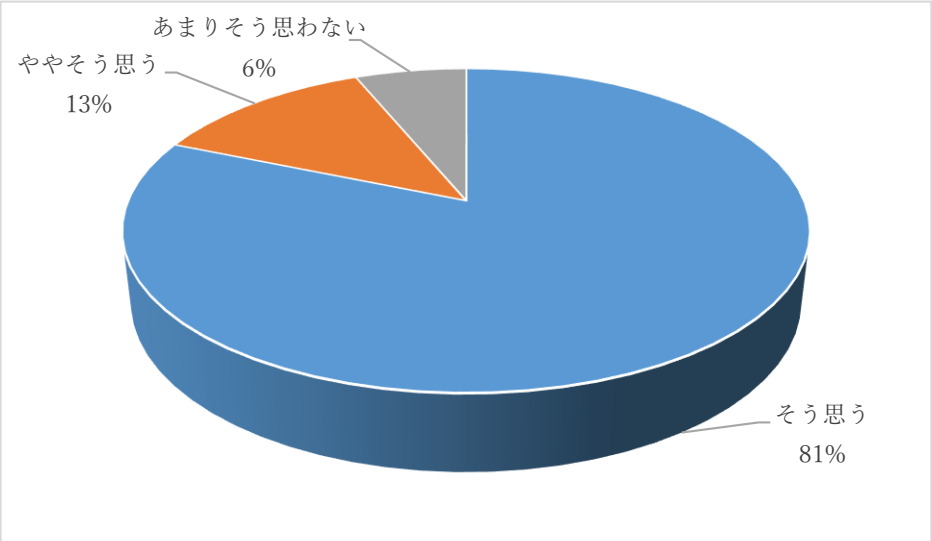


図 103　「ダンス」授業は楽しかったですか

「『ダンス』の授業を通して，授業を受ける前よりも踊れるようになりましたか」の問いに対しては，9 割以上の生徒が「そう思う」「ややそう思う」と答えていた．1 名の女子のみが，「あまりそう思わない」と答えていた．

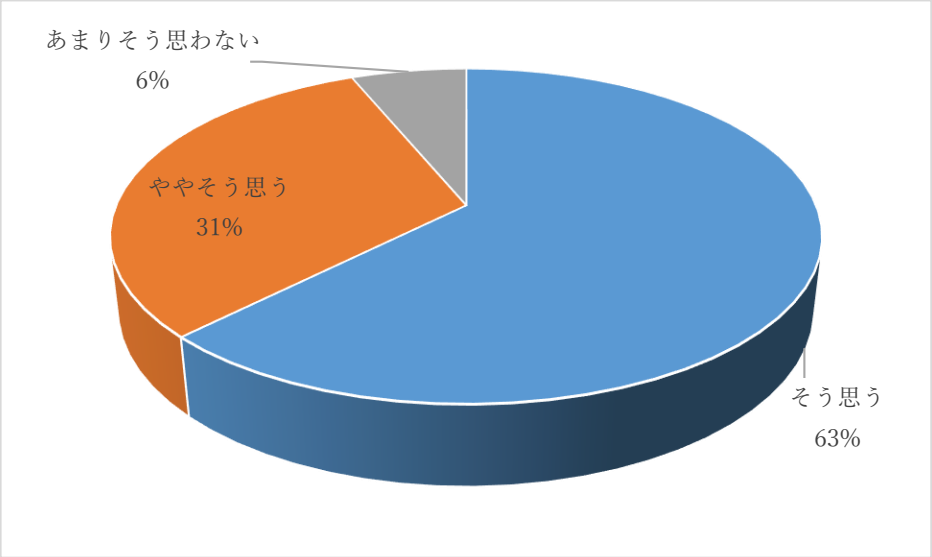


図 104　「ダンス」の授業を通して，授業を受ける前よりも踊れるようになりましたか

「『ダンス』の動きの要素を示した図は，ダンスの動きを高める上で役立ちましたか」の問いに対しては，全生徒が「そう思う」「ややそう思う」と答え，「そう思う」と答えた生徒は半数以上にのぼった．

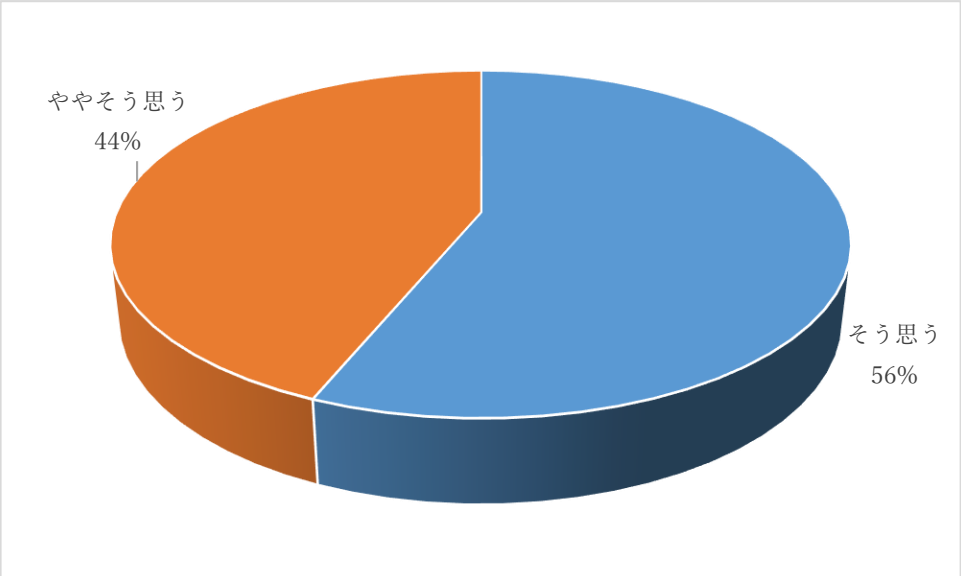


図 105　「ダンス」の動きの要素を示した図は，ダンスの動きを高める上で役立ちましたか

「『ダンス』の授業を通してどのような力が身に付きましたか」の問いに対しては，16 名中 13 名が「ダンスに関する知識（ダンス用語，表現の仕方，みる方法，体力の高め方等）」が身に付いたと答え，「ダンスを踊る力」の 10 名を上回り，全項目の中で最も多い回答数となった．また，16 名中 7 名が，「自分の考えを仲間に伝える力」が身に付いたと回答していた．

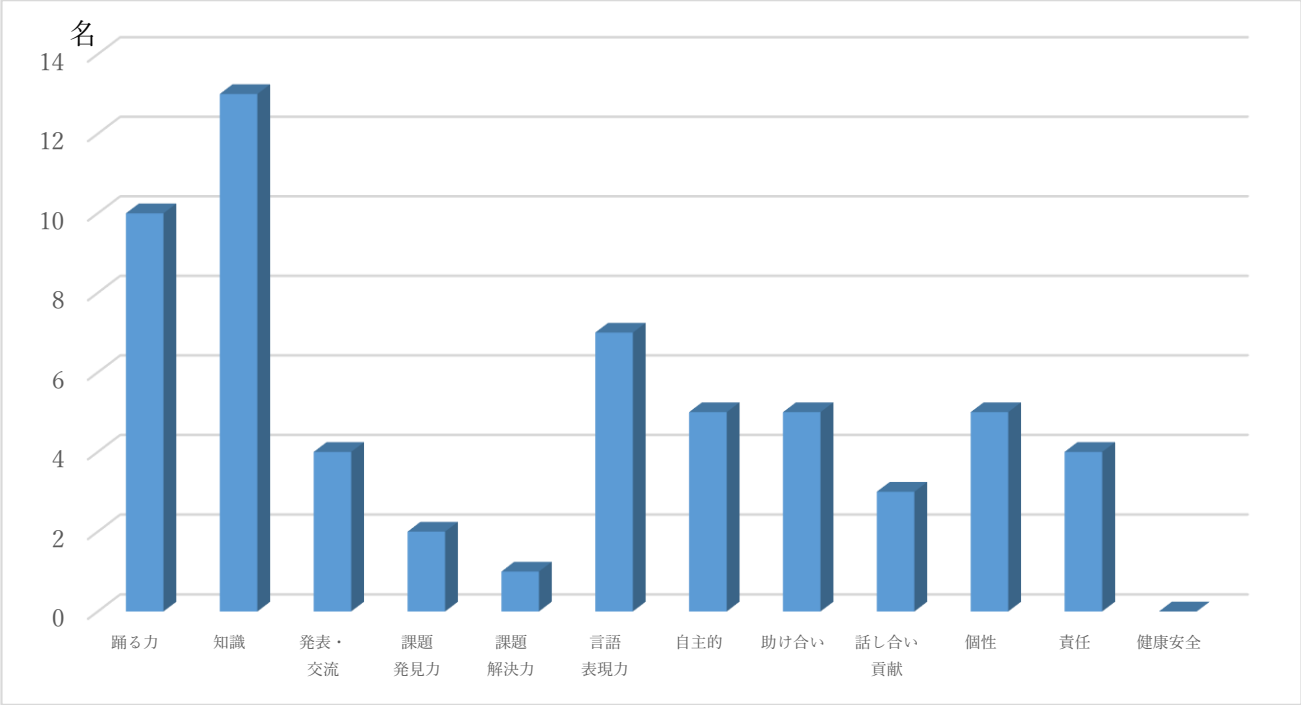


図 106　「ダンス」の授業を通してどのような力が身に付きましたか

「『ダンス』の授業を経験して，『ダンス』への興味・関心が高まりましたか」の問いに対しては，全生徒が「そう思う」「ややそう思う」と答え，「そう思う」と答えた生徒は 60%以上であった．

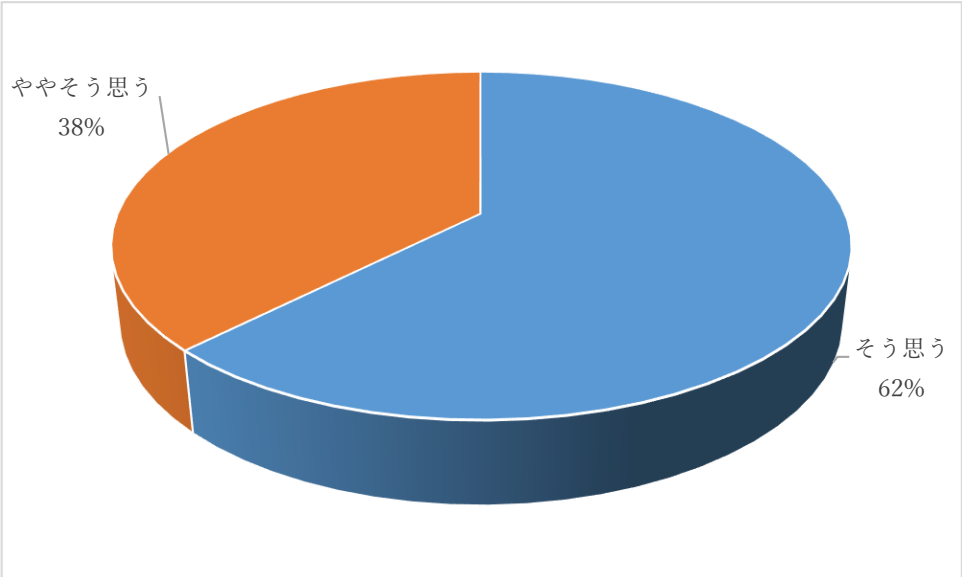


図 107　「ダンス」の授業を経験して，「ダンス」への興味・関心が高まりましたか

（8）外部指導者活用の課題

今回，授業を実践したＡ中学校は，地域指導者の活用は今年が初の試みであった．地域指導者は，事前に保健体育科教員から担当クラスの様子や，単元のねらいと目標，単元計画，指導内容等を共有し，役割分担をしっかりと行った上で，授業が実施されていたため，スムーズに授業が展開されていた．

地域指導者は，これまでも他の中学校にて，同じ地域指導者としての指導経験があるが，学校現場の保健体育科教員との打ち合わせや情報共有の重要性を感じていた．保健体育科教員の中には，自身のダンス経験や指導経験が少なく，地域指導者に授業のほぼ全てを任せてしまいたいという思いを持つ教員も存在する．その場合，本授業を担当したような，「学校体育」の「ダンス」授業に精通した地域指導者であれば大きな問題はないかもしれない．しかし，例えば普段ダンススクールやダンス教室等で指導しているインストラクターが地域指導者として学校現場で指導する場合，本来，生徒たちに教授すべき学習指導要領に即した内容を提供できない場合が考えられる．「ダンス領域」の授業は，学習指導要領に即して，ダンスの「技能」だけではなく，ダンスの授業を通して「知識，思考・判断」や「態度」についても指導する必要があるが，それらの指導までを外部指導者に委ねるのには限界があると考えられる．

地域指導者は，単元のねらいや目標，単元計画，指導内容等のベースは必ず保健体育科教員が作成し，その上で，保健体育科教員の方から，「ここの場面で動きの示範を見せて欲しい」「この動きの指導，助言をして欲しい」「この動きのコツを教えて欲しい」等，要望を出す形で打ち合わせをすることがより良い形であると考えていた．そのためにも，保健体育科教員自身が，教員対象のダンス研修会等の機会を活用して，ダンスの授業づくりについて学ぶこと，また，教員養成課程の大学の段階で，しっかりとダンスの授業づくりについての基礎的な内容を学んでおくことが重要であると感じられていた．

2-2. N 県 N 市立 B 中学校における実践

（1）授業対象

B 中学校は，2021 年 3 月に統合により閉校予定の中学校で，現在，第 2 学年が 15 名，第 3 学年が 17 名の全校生徒系 32 名の学校である．

本実践の授業対象は，中学校第 2 学年の 1 クラス（男子 6 名，女子 9 名）の「ダンス領域：創作ダンス」の授業とした．担当は，男性の保健体育科教員 1 名と，外部指導者 1 名（ダンス専門家，大学教員 6 年目）であった．生徒は，体育祭等を通してダンスに取り組む中で，リズムに乗って弾んで踊る楽しさは学習済みであったが，動きに変化を付けて即興的に表現する学習ははじめてであった．最終的に「校歌からダンス作品を創る」ことを目指し，全 5 時間の授業が実施された．

（2）授業計画と実施内容

中学校側から，次年度が最後の体育祭となるため，そこで披露できるようなダンス作品を創れないかとの要望があり，授業の成果として，「校歌からダンス作品を創る」ことを目標に授業が計画された．

まず 1 時間目は，題材を「『走るー止まる（追跡の動き)』からイメージを捉え、メリハリを付けて動こう」とし，目標を以下の 3 点とした．

・仲間の良い動きやアイデア等，違いや良さを認め合おうとする（学びに向かう力，人間性等）

・動きに変化をつけて即興的に動くことができる（知識及び技能）

・素早い動きや瞬時に止まる動きなど，メリハリをつけた仲間の良い動きを見つけることができる（思考力，判断力，表現力等）

50 分の流れは図 108 の通りであった．

時間	学習活動	教師の手立て・評価
0 分	1.　集合・挨拶・出席確認 体育館時計側、ホワイトボード前に整列する。点呼、体調確認を行う。 （自己紹介、挨拶）	・　授業開始前に整列するように声をかける。（ホワイトボードの前に立ち、教師を中心に整列を促す。） ・　出席確認、健康状態を把握する。
	2.　オリエンテーション ・　授業者の説明をする。 ・　ダンス領域及び創作ダンスの特性、本単元で身に付けたい内容を説明する。 ➢　仲間と関わって踊る楽しさ ➢　一人一人異なる発想・動きの楽しさ ➢　イメージしたものを、体全身を使って表現する楽しさ	・　ダンスの特性に触れて説明し、理解を促す。
5 分	3.　２人組ストレッチ ・　２人組、４人組を作成する。 ・　整列から、同性同士 ・　全体へ広がる。 ①　向かい合い肩、膝裏、側面を伸ばす ②　向かい合い開脚して骨盤を回す ③　向かい合い手を繋いだまま立ち上がる	・　奇数等になった場合は、3 人組を組ませる。 ・　体をほぐしつつ、少しずつ気持ちや体を踊る状態へ切り替えることを重視する。 ・　教師が説明及び示範を行いながら、同時に生徒に取り組ませる。また様子をみつつ巡回し、全体を観察する。 ・　主運動へ繋がる下半身を重点的に伸ばす。
10 分	4.　体じゃんけん＆あっちむいてほい ①　足じゃんけん 3 回勝負 ②　全身じゃんけん 3 回勝負 ③　全身を使ってあっちむいてほい 「あっちむいて」：足踏み 「ほい」：体全体で方向を指すポーズ ➢　瞬時にストップし、動きにメリハリをつける ➢　体全身を使って表現（ポーズ）をする ➢　瞬発的に動きを提案する	・　周囲の安全に留意することを説明する。 ・　教師は生徒の中心へ移動し、活動の説明をしつつ示範を行う。 ・　ポイントとなる体の使い方を指導する。 ・　体の動かし方が小さい生徒は、足の裏、お腹、頭の先などで方向を指すように促す。 ・　生徒の様子を見ながら、
15 分	5.　本時の目標確認 ・　ホワイトボード前に集合する。	

	メリハリ：本時では、動きの速さ（緩急）の工夫とし、「素早く走る―瞬時に止まる」という対極の動きを取り上げる。	・ 本時の目標を読み上げ、よい動きにはメリハリをつけた動きがあることを説明する。 ・ 仲間のよい動きは賞賛し、相手に伝えることを指導する。
18 分	「走る－止まる（追跡の動き）」からイメージを捉え、メリハリをつけて動こう	
	① 教師の示範 ② 一斉に「足踏み＆止まる」を行い、素早く動く・瞬時に止まる感覚を捉える ③ 導入時の 2 人組を作成 ④ 前後に並び、前の人について、走る・止まるを繰り返す ➢ スピーディーな移動、瞬時に止まる ➢ 相手と同じタイミングで動く	・ 視線・髪の毛まで止めるようなイメージを助言する。仲間の動きも意識し、周囲の空気も一緒に止めるような感じを体験させる。 ・ まず教師が、走る―止まるを示範し、「メリハリ」とはどのような動きかを示す。 ・ リーダーを交代しつつ行わせる。
25 分	7. 走る―止まる（見る・跳ぶ・転がる） ① 教師の示範 ・ その場で座る ・ 止まる際に「好きな方向を見る」 （走る過程で、跳ぶ・転がる） ② 即興的に動く ➢ 素早く見る、じっとり見るなど多様な見方があること	・ 良い動きは取り上げて、紹介する。 ・ 体育館の広さをみて、安全に留意して行う。 ・ 2 人組の前者は、後者が分かるように、明確に視線、動きを示すことを確認する。 ・ 生徒の様子をみつつ、走る過程で、跳ぶ・転がる動きを工夫させる。
32 分	8. イメージを捉える ・ その場で座る ① 「走る―止まる」からイメージを広げ、「追跡」と仮定しペアの設定を考える（約 3 分） 例 トム＆ジェリー、ルパンと銭形、夫婦喧嘩、特売バーゲン、パパラッチ etc.・・・ ➢ テーマからイメージを捉える	・ 体育館の広さを見て、必要に応じ半数ずつ動く。 ・ まずは素早く走る・ピタッと止まることをポイントとする。生徒の様子をみながら、各設定にふさわしい走り方、止まり方を工夫するように指導する。 ・ つまずいているペアには、「逃走、発見、探求」等のイメージを提示する。
35 分	9. 即興的に動く（見せ合い形式） ① 当初の 4 人組を作成 ② 前半・後半で活動し、イメージした内	

	容を当て合う、感想 ➢ 仲間の良い動きを見つける ➢ イメージを捉えて動く	・ 必要に応じて、リズム変化、空間移動の変化・動きの変化など、動きの工夫を指導する。
45 分	まとめ ・ ホワイトボード前に集合する。 ① 本時の目標に照らして、自己評価や工夫した点を、ワークシートに記入する。 ➢ よい動きの一つに、変化（メリハリ）をつけた動きがあること ➢ 全員が楽しんで学習するための一人一人の姿勢や態度が大切であること。	仲間の良い動きを見つけ、違いを認めようとする。（態度）【観察】 ・ ワークシートを配布し、生徒の記入の様子を確認する。（時間に応じ、終了後の記入） ・ 時間に応じ発表させ、全体で共有する。 ・ 本時の目標に照らしたまとめを全体へ共有する。
50 分		素早い動きや瞬時に止まる動きなど、メリハリをつけた仲間の良い動きを見つけている。（思考・判断・表現）【ワークシート】

図 108　1 時間目の時案

2 時間目は 1 時間目に学習した「走る－止まる」をもとにした緩急を工夫した動き，変化を付けた即興的な動きの定着を図るとともに，イメージを捉えて動くことをねらいとした，特に，校歌からイメージを広げ，表したい感じやふさわしい動きを探求することを題材に，目標を以下の 3 点とした．

・仲間の良い動きやアイデアなど，違いや良さを認めようとする（学びに向かう力，人間性等）
・テーマからイメージを捉え，変化を付けて動くことができる（知識及び技能）
・イメージを捉え，己や仲間の良い動きを見つけることができる（思考力，判断力，表現力等）

50 分の流れは図 109 通りであった．

時間	学習活動	教師の手立て・評価
0 分	1.　集合・挨拶・出席確認を行う	・　健康状態等、生徒の様子を把握する。
5 分	2.　前時の復習と本時の課題を確認する 「イメージを広げ動きにしてみよう」	
7 分	3.　ペア・ストレッチを行う ・　整列から、同性同士でペア作成 ・　向かい合い肩、膝裏、側面を伸ばす	・　導入では、体をほぐし、少しずつ気持ちや体を踊る状態へ切り替えることを重視する。
12 分	4.　走る―止まる－見るを行う（復習） ＜Point＞ ➢　素早く走り、瞬時に止まること ➢　多様な、走り方（跳び方、転がり方）、見方があること ・　ポイントを押さえて動く	・　視線や周囲の空気まで止めるようなイメージを助言する。 ・　跳ぶ・転がる動きを加え、動きを広げる。 ・　良い動きは随時取り上げて、紹介する。
20 分	・　「中学校生活」から一場面を切り取り、走る－止まる－見るを活かして表現する（時間に応じ取り組む）	・　イメージが捉えにくい生徒へは、「逃亡、追跡、探索」等のイメージを示す。 ・　前時の活動に触れイメージを捉えた様々な走り方・跳び方・止まり方・見方があることを確認させる。
25 分	5.　校歌からイメージを広げて動く ・　男女混合の 3 グループを作成する ・　校歌の 1 行から場面や動きを捉えて動きを考える	
40 分	6.　見せ合い、感想を共有する ・　仲間の良い動きを見つける	仲間の良い動きやアイデアなど、違いや良さを認めようとする。 （態度）【観察・ワークシート】
47 分	7.　まとめ ・　多様な発想や動きがあることを振り返る ・　江平中学校の校歌について、由来や歴史の理解を深めることを宿題とする	

図 109　2 時間目の時案

また，生徒に配布した「学習カード」を図 110 に示す．

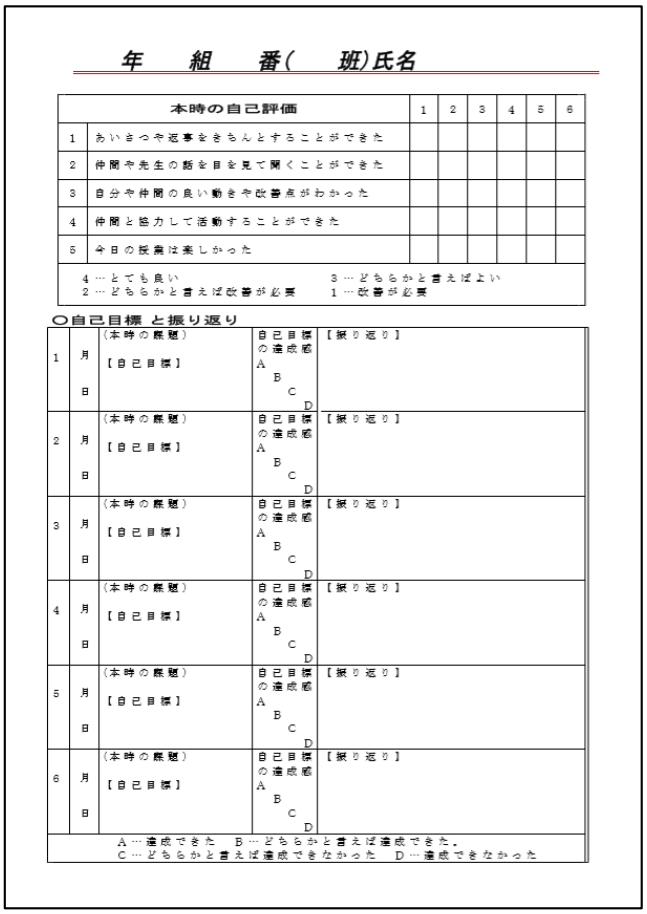


図 110　授業で活用した学習カード

3 時間目は，ウォーミングアップに「現代的なリズムのダンス」の要素を取り入れ，生徒が心身をほぐした状態で創作活動へ意欲的に取り組めるよう指導された．その後，前時から継続する創作活動へ移ったが，取り組み初めでクラス全体が停滞する様子が見られたことから，急遽「集まる―飛び散る」を実施し，前時に反省として残った「空間の使い方」について触れ，各グループのダンス作品へ活かすよう指導された．3 時間目では，全てのグループが概ね最後までダンス作品を創り上げた．

4 時間目は，完成させたダンス作品の精度を高めることを目標に，踊りこみを行った．前時の動きを確認しながら，創り出された動きについて，誇張して動くことやメリハリを付けて動くことなどを再確認した．また，校歌の歌詞から解釈したイメージを，グループ間で共有しながら動くことを指導した．

単元の最後となる 5 時間目は，4 時間目と同様に，踊りこみを行い，随時，動きへ修正を加えながら，授業最後にダンス発表を実施した（表 25）．

表 25　授業計画

時間数	ねらい	主な指導内容
1 時間目	「走るー止まる』からイメージを捉え，メリハリを付けて動こう	あいさつ，ウォーミングアップ（2 人組ストレッチ・リズムで弾んで踊る） 走る―止まる（見る），まとめ
2 時間目	校歌からイメージを捉え，変化をつけて動こう（メリハリを付けて動こう）	ウォーミングアップ（2 人組ストレッチ・リズムで弾んで踊る），走る―跳ぶ―止まる（見る） グループ作成，グループ別に校歌から創作する（歌詞の途中まで），見せ合い，まとめ
3 時間目	校歌からイメージを捉え，変化を付けて動こう	ウォーミングアップ，（2 人組ストレッチ・リズムで弾んで踊る），集まる―飛び散る，グループ別に校歌から創作する（完成），見せ合い，生徒同士の振り返り
4 時間目	ダンス作品の精度を高めよう	ウォーミングアップ（リズムで弾んで踊る） グループ別の踊りこみ，見せ合い，生徒同士の振り返り
5 時間目	自分たちの表現を発表しよう	ウォーミングアップ（リズムで弾んで踊る） グループ別の踊りこみ，発表，生徒同士の振り返り

（3）当初の授業計画と実際の授業計画の差異について

当初の授業計画では，動きを工夫する視点として 「技能評価観点構造図」を提示し，それらを確認しながら，毎回の授業や創作活動時を進めることを考えていた．しかし実際の授業では，生徒は即興的に動くことに慣れておらず，本時に身に着けたい動きを，まずは教師と共に「やってみる」ことが重要であると判断した．また校歌をもとにした創作活動時では，生徒が積極的に歌詞の意味を考え，仲間とイメージを共有して動きに表そうとする姿勢が見られたことから，それら生徒の主体性を活かし，「踊る」「創る」の中で，特に「創る」に焦点を当て，動きのアイデアを多く提案することに重点を置いた．特に，保健体育教員からの事前の聞き取りにおいて，本実践の生徒たちは自己有用感が低いことが課題に挙げられていたため，まずは自分で動きをみつけることや，仲間のアイデアを認め合うことを重視した．

「技能評価観点構造図」は，A 中学校の現代的なリズムのダンスの授業において授業の後半に活用されており，生徒たちが，ダンスをある程度「踊れる」＝「できる」ようになってから，さらに動きを高めたいというタイミングで動きの要素を提示した方が，より理解が深まるのではないかと判断されていた．今回の B 中学校の実践においても，ある程度，校歌をもとにしたダンス作品を創作した後，さらに動きを工夫する際に使用しようと考えていた．しかし授業展開や単元数の状況を踏まえ，動きを見つけることに重点を置いたこと，「技能評価観点構造図」から課題を絞り提示す

ることを判断した．またその際，クラス全体で図を活用するに至らなかった．その理由として，グループでの活動を行ったため，グループ間での進捗状況の違いや，グループにふさわしい工夫の仕方があり，教員がグループの様子を見てその都度フィードバックする場面が多く，図を用いてクラス全体で振り返りを行い，工夫の仕方を確認し合うまでに至らなかった．

（4）ダンスの「技能」と「知識」の関連について

授業を展開する中で，「できる」と「わかる」を繋げるため，導入時において，前時のポイントを確認することや，本時の課題に照らして個人目標を立てることが行われていた．その際，例えばただ「メリハリ」「表現する」等と記入させるのではなく，「メリハリとはどのようなことか」，「自分たちの表現が伝わるためには何が必要か」など，保健体育教員の発問によって，生徒が思考を巡らせ，自身の言葉で具体的に発言することができるようにした．さらに本時の課題に照らして個人目標を立てることで，生徒が自身で捉えた「知識」を「技能」として定着を図るよう意識した．導入時にこのような活動を行うことで，前時に学習した「知識」及び「技能」を振り返り，本時の「知識」及び「技能」と関連づけることができる．また生徒同士の見せ合いでは，良い点や改善点などのアドバイスを記入する付箋を用意し，交換した．その結果，学習カードにおいて，付箋を用いた授業までの記述に比べ，より具体的な気づきが記述された．このことから，ダンス（本実践では「創作ダンス」）における「知識」と「技能」では，生徒が個人で見つけた動きや工夫の仕方だけでなく，「何がどのように伝わったか」という他者からの評価を受けて，より具体的で明確なものになると考えられる．さらに校歌をもとにした創作活動では，歌詞の意味を調べる・解釈を考えることで，学校の歴史や地域の理解へと繋がったほか，表したいイメージや工夫の仕方が具体的なものになった．加えて，歌詞の解釈や表したいイメージをグループ間で意見交換し，明確にすることでより具体的な動きの提案へ繋がっていた．

これらのことから，ダンスにおける「技能」と「知識」の関連では，動きの工夫の仕方を理解することで，表したいイメージがより具体的になり、表したいイメージが具体的になることで，動きの工夫の仕方も明確になる．それらの高まりとともに，「技能」としても，動きの高まりへ繋がると考えられる．

（5）生徒の授業後アンケート

①実施方法

５時間目の授業の最後に，生徒にアンケートを実施した．項目は，以下の通りであった（巻末資料 3）

・「ダンス」の授業は楽しかったですか？
・「ダンス」の授業を通して，授業を受ける前よりも踊れるようになりましたか？
・「ダンス」の授業を通してどのような力が身に付きましたか？全てに〇をしてください．
・「ダンス」の授業を経験して，「ダンス」への興味・関心が高まりましたか？

②アンケート結果

有効回答数は，15 名（男子 6 名，女子 9 名）であった．

「『ダンス』授業は楽しかったですか？」の問いに対しては，100%の生徒が「そう思う」と答えていた．

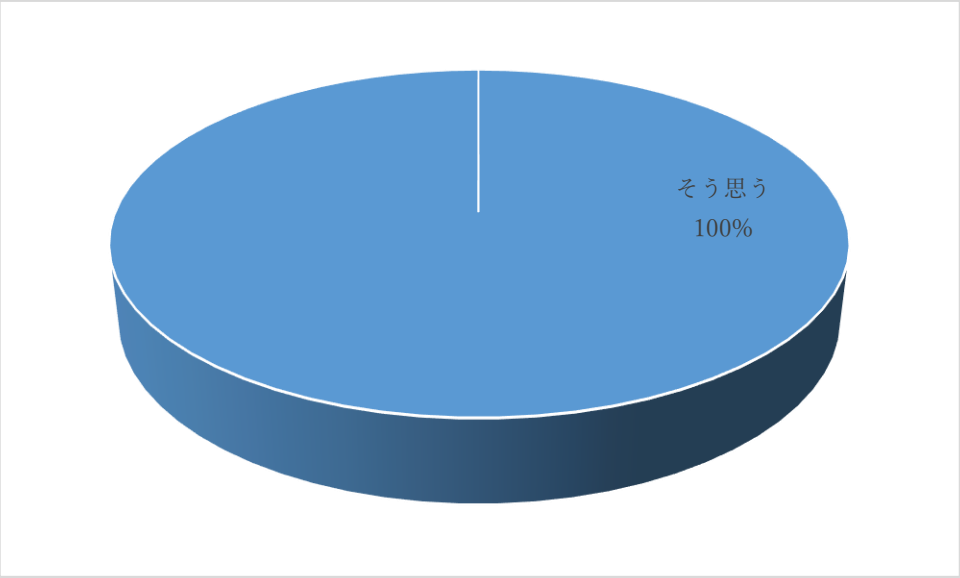


図 111　「ダンス」授業は楽しかったですか

「『ダンス』の授業を通して，授業を受ける前よりも踊れるようになりましたか」の問いに対しては，9 割以上の生徒が「そう思う」「ややそう思う」と答えていた．1 名の女子のみが，「あまりそう思わない」と答えていた．

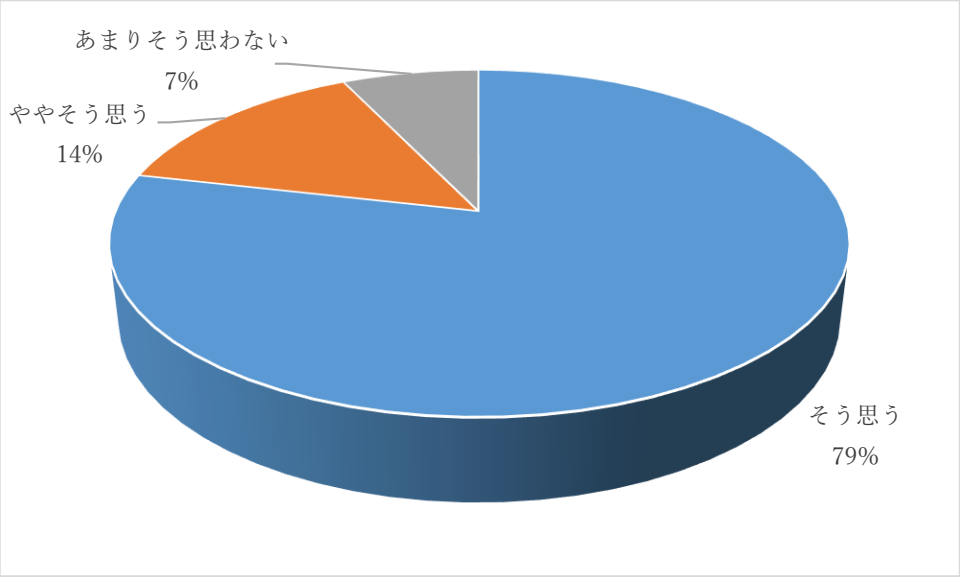


図 112　「ダンス」の授業を通して，授業を受ける前よりも踊れるようになりましたか

「『ダンス』の授業を通してどのような力が身に付きましたか」の問いに対しては，15 名中 13 名が「仲間と助け合う力」が身に付いたと答え，全項目の中で最も多い回答数となった．また，15 名中 9 名が，「積極的に取り組む力」が身に付いたと回答していた．一方，「ダンスに関する知識」が身に付いたと回答した生徒は，15 名中 2 名のみであった．

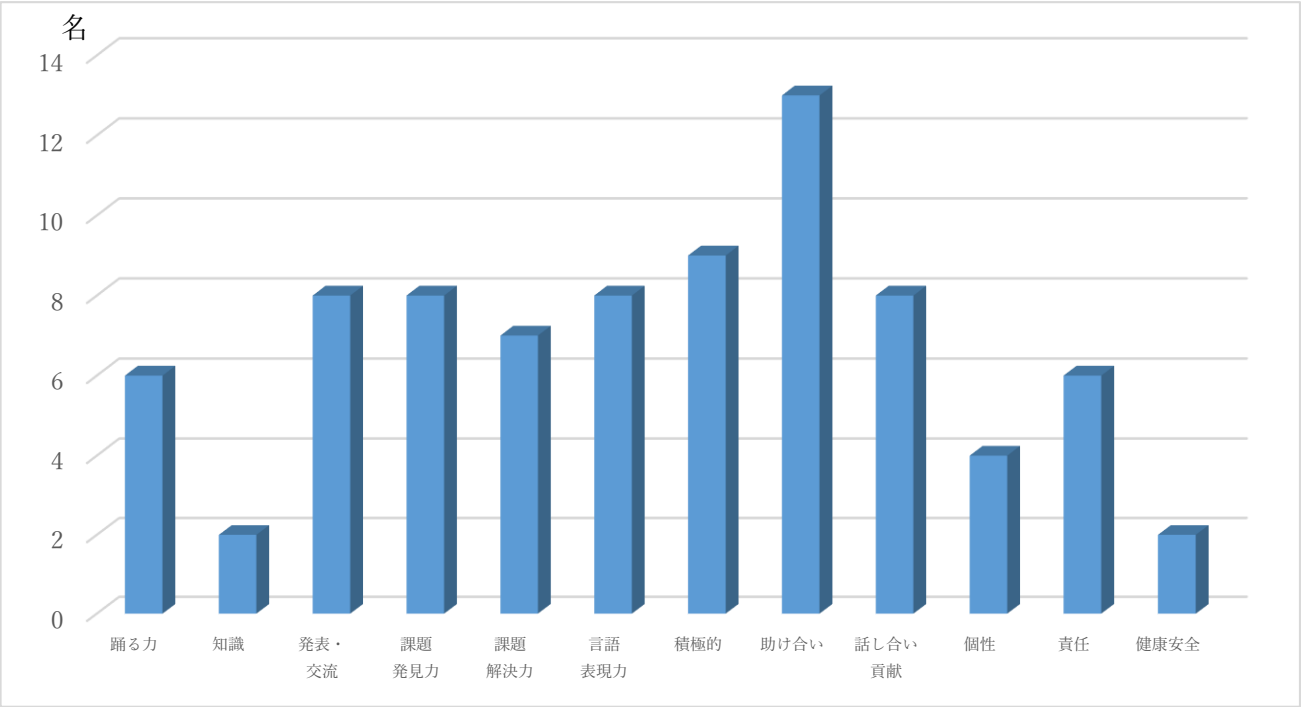


図 113　「ダンス」の授業を通してどのような力が身に付きましたか

「『ダンス』の授業を経験して，『ダンス』への興味・関心が高まりましたか」の問いに対しては，全生徒が「そう思う」「ややそう思う」と答え，「そう思う」と答えた生徒は 60%以上であった．

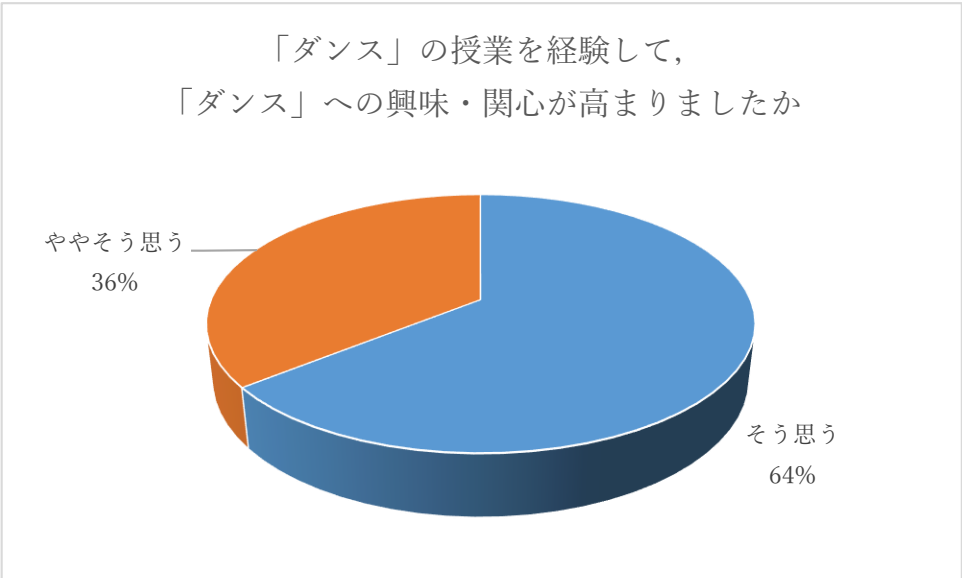


図 114　「ダンス」の授業を経験して，「ダンス」への興味・関心が高まりましたか

3．まとめ

中学校において実施率の高い「現代的なリズムのダンス」と「創作ダンス」の「知識」と「技能」を関連づけた授業展開を行うための教材「技能評価観点構造図」を開発した．

（1）K 県 M 市立 A 中学校：「現代的なリズムのダンス」の授業実践について

K 県 M 市立 A 中学校の「現代的なリズムのダンス」の授業で「技能評価観点構造図」を使用した．授業を実施した教員らは，頭で動きを「理解」してから，実践する（踊る）のではなく，まずは，生徒たちが，ダンスをある程度「踊れる」＝「できる」ようになってから，さらに動きを高めたいというタイミングで動きの要素を提示した方が，より理解が深まるのではないかと判断し，この「技能評価観点構造図」を授業の後半に活用していた．

教員らは，ただ動きを工夫しようといっても，生徒たちはどの動きをどうしたら良いかわからないが，この「技能評価観点構造図」があったおかげで，どこをどう工夫すれば良いかのヒントがあり，効率よく動きを高めることができていたと述べられていた．また，生徒たちが今まで実践した動きについても，その動きがどのような要素から成り立っていたのかを，あらためて頭で理解することができていたと感じていた．生徒アンケートでは，生徒自身が「技能評価観点構造図」は「ダンスの動きを高める上で役立った」と感じ，「『ダンス』の授業を通してどのような力が身に付きましたか」の回答でも，「ダンスに関する知識」が最も多く，ダンスの「知識」の習得を実感していたようであった．

（2）N 県 N 市立 B 中学校：「創作ダンス」の授業実践について

「技能評価観点構造図」は，A 中学校の現代的なリズムのダンスの授業において授業の後半に活用されており，生徒たちが，ダンスをある程度「踊れる」＝「できる」ようになってから，さらに動きを高めたいというタイミングで動きの要素を提示した方が，より理解が深まるのではないかと判断されていた．今回の B 中学校の実践においても，教員らは，当初の授業計画では，ある程度，校歌をもとにしたダンス作品を創作した後，さらに動きを工夫する視点として 「技能評価観点構造図」を提示し，それらを確認しながら，毎回の授業や創作活動時を進めることを考えていた．

しかし授業展開や単元数の状況を踏まえ，動きを見つけることに重点が置かれ，グループ活動の際，教員がグループの様子を見てその都度，図の要素を認識してフィードバックされた．図を用いてクラス全体で振り返りを行い，工夫の仕方を確認し合うまでに至らなかった．

従って，「技能評価観点構造図」を中学校授業で活用する場合は，あらかじめ単元計画に沿って課題を絞ることや，生徒の学習段階を踏まえて提案するタイミングを検討することが必要である可能性が示唆された．また「踊る」「創る」「観る」学習を提唱するダンス領域では，「創る」「踊る」は密接にかかわっており，互いを無視して学習を進めることはできない．限られた単元の中でそれらをどう指導するかによって，「技能評価観点構造図」提案するタイミングや仕方が異なると考える．